

このフォーラムは、厚生労働省が主催する「共生社会等に関する基本理念等普及啓発事業」の一環として11月12日、13日の二日間、大阪市住之江区のオスカードリームビルで開催されました。

オープニングパフォーマンスは、ONE TRIVE(ワントライブ)の元気なダンスパフォーマンス、基調講演は、奥田智志氏(認定 NPO 法人 包撲理事長)による「いのちに意味がある～私たちは、何を大切についてきたのか～」と題したものでした。

津久井やまゆり園の事件について

奥田氏は、基調講演の中で2016年7月26日に起きた津久井やまゆり園の事件に触れられました。若い職員さんの中には、この事件の事を知らない方もおられるかも知れません。この事件は、元施設職員だった犯人が、刃物を持って施設に押し入り、多くの利用者を殺害した大変凄惨な事件で、社会に大きな衝撃を与えました。

奥田氏は、実行した犯人と接見され次のようなコメントを残されています。「経済の格差の問題を超えて、存在や命自体の格差に広がってきていて、生きていい人と生きては駄目な人たちが、どこかで明らかに分断されていく。そういう時代全体のなかでこの事件をもう一度位置づけ直さないと見誤るんじゃないかと思います。」「事件を風化させてはいけないと、これまで各地の講演会でこの事件について話をしています。私は「ともかく生きる」「ともかく命が一番大事」ということを強調したいです。生まれてきたこと、生きてることそのものに意味がある。「そんな当たり前のことを」と言われるかもしれないけれども当たり前のことが当たり前になっていない。障害者も健常者も等しく生きること自体に意味があるという当たり前のことを、社会全体で共有していく必要があるのではないのでしょうか。」(19のいのち-障害者殺傷事件-事件を見つめて)より

[事件を見つめて | 19のいのち 障害者殺傷事件 NHK](#)

午後から「ラストメッセージこの子らを世の光に」(NHK スペシャル)の上映がありました。

私は、学生時代に糸賀一雄氏の著書「この子らを世の光に」を読んでいたし、上映されたものも見ていたので、大変懐かしく思いました。

実は、スケジュール帖が新しくなると裏表紙に毎回書いている言葉があります。

「知的障害といわれる人たちを世の光たらしめることが、学園の仕事である。知的障害を持った人たち自身の真実の生き方が世の光となるのであって、それを助ける私たち自身や世の中の人々がかえって人間の生命の真実に目覚めていくのだ」

糸賀一雄氏の命の尊厳への熱い想いが伝わってくる言葉です。糸賀一雄氏の「この子らを世の光に」と言うタイトルに込められた想いや意味を改めて考えました。当時からなかなか終わらない宿題を託されたと思っています。

糸賀一雄：1946年に池田太郎、田中一二とともに、戦災孤児を收容し、知的障害の教育を行う「近江学園」を創設。1963年には、重症心身障害児施設「びわこ学園」を創設。知的障害のある子どもたちの福祉と教育に一生を捧げ、戦後日本の障害者福祉を切り開いた第一人者であり「**社会福祉の父**」と呼ばれています。

糸賀氏は、近江学園で障害のある子どもたちと暮らす中で、その生きる姿に「だれととりえかえることもできない個性的な自己実現をしている」ことを感じ、それを「世の光」と見て、さらにそれを輝かせることが、人間社会に信頼を回復し、平和と喜びのある社会につながるという確信から「この子らを世の光に」という言葉を残しました。(共生フォーラム共通テキスト「ほほえむちから」より)

【厚生労働省主催】令和6年度 共生社会等に関する基本理念等普及啓発事業

共生社会 フォーラム

in 大阪 2024 [近畿・東海・北陸
ブロック]

福祉の思想に学び、実践し、語る人に

表現活動 ONE TRIBE / 基調講演 奥田知志氏 認定NPO法人抱樸
(ワントライブ)

2024(令和6)年 11月12日(火)・13日(水)

オスカードリームビル (大阪市住之江区新北島1丁目2-1)

定員100名 (一般参加 70名 / 企業向け研修 10名 [11/12のみ] 参加無料
福祉職研修 20名 [中堅12名 / 学生・新任者8名(両日参加)]) 【要申込】

実施 公益財団法人糸賀一雄記念財団、共生社会フォーラムin大阪開催委員会

[開催委員会構成団体] NPO法人 自立生活夢宙センター、NPO法人 自立生活センター・いこらー、
(いずれもOSAKAIL7メンバー) NPO法人 ばあとなあ、NPO法人 自立生活センター・リアライズ、
NPO法人 自立生活センター・あるる、NPO法人 ムーブメント、NPO法人 ちゅうぶ

申込・問合せ 公益財団法人 糸賀一雄記念財団 HP <https://inclusive-society.net/>
〒525-0072 滋賀県草津市笠山7丁目8-138 滋賀県立長寿社会福祉センター内
TEL 077-567-1707 FAX 077-567-1708 E-mail itoga-oubo@itogazaidan.jp

社会情勢に応じ、マスク着用、手指消毒、検温へのご協力をお願いすることがあります。